

週寫眞 報

情 報 局 編 輯
八 月 十 一 日 第 二 百 八 十 四 號

昭和十一年八月十一日 星期一 編輯部 印刷部 電話 四八八七

ビルマ國の誕生



ビルマがいよいよ獨立した

大東亞戦争のさなか、全世界の注目を浴びて「ビルマ國」は生れたのである。御稜威の下、大東亞戦争がもたらした餘りにも偉大な現實に、東亞民族あげて心からの歡呼とともに、肅然襟を正さしめる感激を覚える

また、中華民國積年の願望である上海共同租界の回收も實施を見るに至り、治外法權の一部も撤廢されることになつた

願みれば、滿洲事變に端を發して既に十有二年、幾多英靈の尊い血潮によつて築いた大東亞必勝の態勢はまさに確立されんとし、今や東亞の總力をあげて宿敵米英と雌雄を決する時は到來したのである

しかも、かくなるに及んで敵の反攻もまた熾烈を極め、世界戦局の重大性は今更多言を要しない

宣戰の大詔が煥發された朝、われら一億はたとひ全世界を敵としても、あくまで聖戰を完遂する鐵石の決意を固めた

今こそ、その決意新たに、すべてを直接の戦力増強に結集し、米英撃滅に邁進あるのみである

共同建設 共同争闘 共同建設 共同争闘



「時の立札」は他へ轉載その他に利用下さい
 一東京都神田區孔在寮にて

日本國政府及「ビルマ」國政府ハ
 日本國政府ガ「ビルマ」國ヲ獨立國家トシテ承認シタルニ因リ兩國ハ相互ニ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ各國ト緊密ニ協力シテ道義ニ基キ大東亞ニ於ケル共同ノ建設ヲ行ヒ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻セシコトヲ期シ

之ガ障礙タル一切ノ禍根ヲ排除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

第一條
 日本國及「ビルマ」國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲軍事上、政治上及經濟上有ラニ協力ヲ爲スベシ

第二條
 日本國及「ビルマ」國ハ大東亞各國ノ共榮ヲ趣旨トスル自主的的發展及大東亞興隆ノ爲ニ共同ノ建設ニ付相互ニ緊密ニ協力スベシ

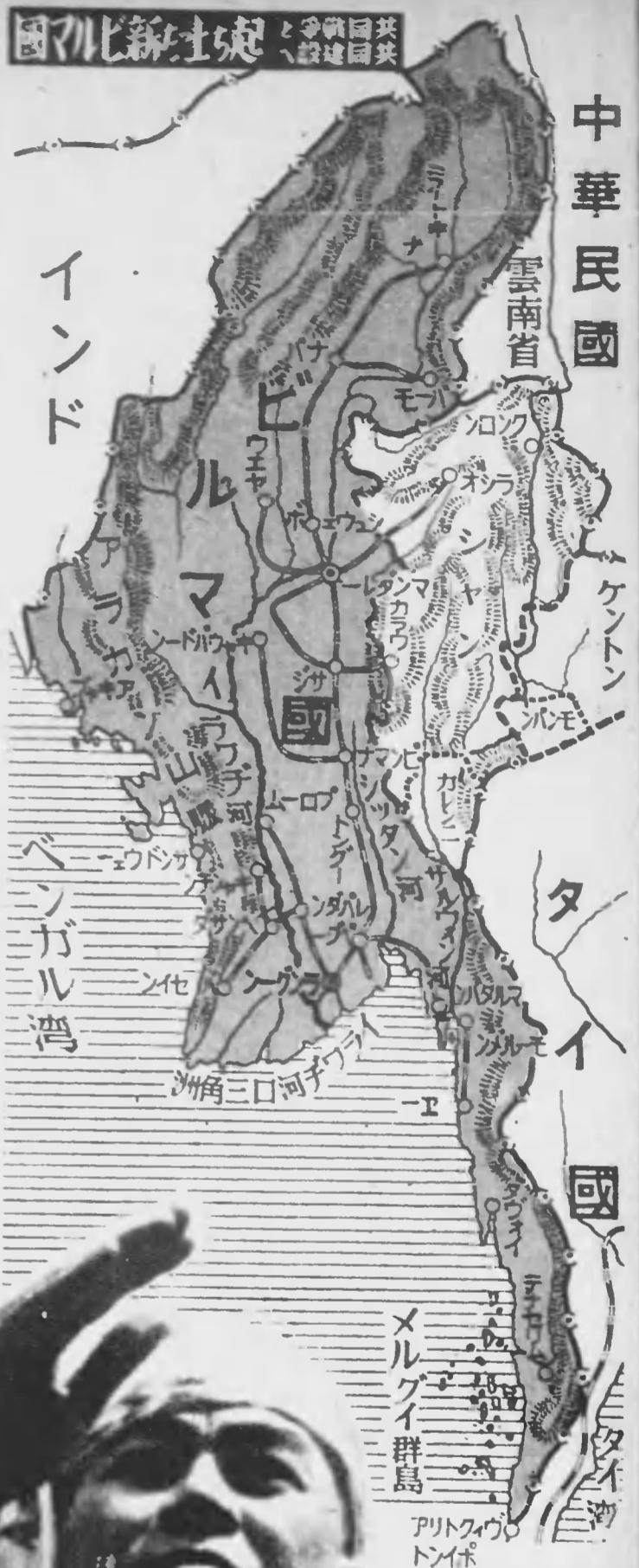
第三條
 本條約ノ實施ニ關スル細目ハ必要ニ應ジ兩國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第四條
 本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ

ビルマ國獨立に關して、帝國政府は一日午後九時、帝國政府聲明を發表、同時に東條内閣總理大臣談話を發表、また同日を以てビルマに帝國大使館が新設された

ビルマ國の獨立は、萬邦をして各、其所を得しめ兆民をして悉く其の緒に安んせしむる聖國の大精神に基き東亞積年の禍根を掃除して新秩序の建設を期せんとする「帝國國是」の顯現である

大東亞戦争下として輝くビルマ國の獨立式典は、八月一日ラングーンにて行はれた。この日朝、ビルマ方面陸軍最高指揮官河邊正三中将は、ハー・モウ行政府長官に對し、同日を以て「現行政府の施政地域における軍政を撤廢する旨」の布告を呈達し、過去一年餘に亘つて行はれた行政府施政地域の軍政の撤廢を期した。かくて獨立の準備全くなされ、獨立準備委員長ハー・モウ行政府長官以下二十五名を以て建國議會を午前十一時より開會された。河邊最高指揮官は臨席、ビルマ一千六百万民衆の熱意によつて「ビルマ國」の建設を決定、直ちに獨立宣言が發表された。ついで暫定憲法ともいふべき國家構想の基本法を決定、國家代表の推戴に成り、前行政府長官ハー・モウ氏を全權に組織院顧問十九名を任命し、新内閣に組織院顧問十九名を任命し、新内閣並びに組織院は成立、政府は直ちに諸外國に對して獨立の通告を行ひ、大い



中華民國

インド

り、またビルマ國は道義に基づき、日本と共に大東亞における共同建設を行ひ、以て世界全歐の平和に貢献せんとするもので、大東亞諸民族が各々の自主的發展と東亞興隆を目的として、その總力を結集し、共同戦争の遂行並びに共同建設の必成のため、搖ぎない團結を強固にしてゐる證據である。

未だにインド民族が米英の制覇の野望の下に屈從してゐる姿と比較すると、わが日本が如何に公正な態度を以て、東亞民族の福祉と繁榮のため、信義に基づいて約束を履行しつゝあるかは明瞭であつて、ビルマ國の獨立こそ、今後における大東亞各民族の歸趨を示したものともしよう。

我々はビルマ國の願望なる發展を祝し、いよ／＼大東亞各國家各民族の結束を強化し、ます／＼歐洲友邦諸國との提携を緊密にして、大東亞戦争完遂、大東亞建設必成に邁進すべきことを固く心に誓はねばならない。

内閣閣僚一覽

首相	タキン・ミン
副首相	タキン・ウー
外務相	タキン・モウ
内務相	タキン・モウ
国防相	タキン・モウ
財政相	タキン・モウ
教育相	タキン・モウ
司法相	タキン・モウ
労働相	タキン・モウ
農林相	タキン・モウ
交通相	タキン・モウ
衛生相	タキン・モウ
勸業相	タキン・モウ
宗教相	タキン・モウ
教育保健相	タキン・モウ
農林相	タキン・モウ
交通相	タキン・モウ
衛生相	タキン・モウ
勸業相	タキン・モウ
宗教相	タキン・モウ
教育保健相	タキン・モウ



「獨立の歌」をもつて、日本と共に米英軍艦隊を征かん」
唱導するビルマ國民
パー・モウ首相は叫ぶ

ビルマ起つ

明治十八年十一月二十九日(西曆一八八五年)英軍アレンダグの率ゐる英軍は非力のビルマ軍を壓迫して上ビルマの首都マンダレーを占領、ビルマの末帝タイボー王を捕縛した。こゝにビルマ王國は終焉を告げ、全ビルマは悉く英の魔手に委ねられるに至つた。

業は老若男女あけて河邊に慟哭した。彼等の國は奪はれたが、精神は決して奪はれはしなかつた。ビルマ王朝滅亡以來實に七年間、上ビルマのこゝかしこに繰り掛けられた民衆の反英抗争に英國が如何に手を焼いたかは、この間の事情を物語るのである。

大正三年(西曆一九一四年)歐洲に起る風雲に刺戟されて結成され、日露戦争後日本に學んだ傑出ウ・オッタマ僧正を指導者とする「ビルマ佛教青年會」は、ビルマ人の政治的自覺が初めて凝集したものであつた。以來ビルマの民族解放運動は英の彈壓下に徐々に展開され、大正九年頃のインド政變のビル

てらん／＼と輝いてゐた。長くも宣戰の大詔はあせられるや、皇軍の雄赫たる戦果に、英人等は周章狼狽しつゝも敗報をひた隠しに隠し、一方惡意傳に馬力をかけ「日本兵は住民の耳を切り手を切つて迫害するぞ」「日本の飛行機はイタリヤから買つたもので、さう速く飛べない」等々、荒唐無稽の流言をよみまいた。ビルマ民衆は日本の事情を必ずしもよくは知らなかつたが、東方から轟く皇軍の熾んたる鐵蹄の音が心強く響いた。殊に毎夜東京からのビルマ語放送は、どんなに彼等を勇気づけたことか。英人監視の眼を逃れ、ラ



首相 タキン・ミン
副首相 タキン・ウー
外相 タキン・モウ
内相 ウ・パ・ウイン
農相 タキン・タン・トン
商工相 ウ・ミヤ
国防相 オン・サン少將
法相 ウ・ティン・モン

願みれば、西曆一八二四年一六六年の第一次英緬戦争によつて、英國は先づインドに近きアラカン地方と東南部タイ國境方面を奪取、次いで一八五二年の第二次英緬戦争により中央南部ビルマを奪取、更に第三次英緬戦争によつて北ビルマを奪取し、全ビルマを降したわけである。

英軍の手に捕へられたタイボー王が英艦艇に移され、思ひ出深い王都マンダレーを後に、イラワチ河を下流してインドに連行される日、悲涙のビルマ民

マ統治法に對する闘争、昭和五年の印緬分離統治問題をめぐつての紛糾を経て、昭和十二年インドより分離せるビルマ統治法によるビルマ政府が出現した。これとてごく限られた面だけにビルマ人の參與が許され、重要施政は依然として英人の手に握られてゐた。

まことに不幸であつたビルマ人。咸程、中心城市ラングーンは昭南キヤンコクやサイゴンに比べて優るとも劣らない立派な都市と思はれる。けれどもこれはビルマ人の都市ではない。英人どもの幸福と福勢のための都でしかなかつた。ラングーン市の土地でビルマ人の所有にかゝるもの僅かに一割あるか無しといふ一事もつてなても、思ひ半ばに過ぎるものがあらう。

この念願に應へて昨年一月、皇軍はビルマに進軍した。神兵來るの報は全ビルマ民衆を震撼させた。かくて、一月三十一日モールメン完全占領、三月八日ラングーン陥落、五月一日マンダレーを攻略し、遂に五月下旬全ビルマを鎮定した。

この間、ビルマ民衆は皇軍に心から協力したので、舊タキン黨を中心とするビルマ獨立義勇軍の取崩れもさることながら、皇軍の進軍する町といふ町、村といふ村で示したビルマ民衆の限りない信頼は、大東亞戦争史の一頁に輝けるべき美しくも涙ぐましい詩材でなければならぬ。

かくて、六月三日ビルマに軍政施行、パー・モウ博士を委員長とする中央行政機關設立準備委員會が結成され、八月一日には行政設置、軍政委員、行政官員渾然一體となつて、大東亞共榮國建設に資せんとして、自覺の努力を續けてきたのであるが、本年一月二十八日、帝國議會に於て「遅くも本年中にはビルマ國の獨立を認めんとする」旨の帝國の大方針が中外に聲明されて、ビルマ人を感謝感激の増城に投じた。更に三月二十五日、東條總理は帝國議會に於て再びビルマの獨立に關し、皇軍の國策の創意と責任とを對して速かに完全な獨立の實現を期する旨言及され、折から東京中のパー・モウ長官は、ちろん、ビルマ民衆の決意を促されたのであつた。

と異常なる熱意と協力ぶりを見よ。戒律のやかましい佛教界は二千年來の劃期的大躍進をとり、近く打つて一丸となり、新國家に協力し、小黨相割に個人政界は昨年來一國一黨のド・パ・マ・シンエサ黨によつてビルマ國の地盤を築いたし、文藝界はビルマ文藝院によつて興國の實を擧げようとしてゐる。ビルマ民衆の國土防衛運動は、昨年末指導者の訓練を以て展開されたが、今やビルマ全縣に亘つて男子女子の民防衛指導者を中心として、不斷に、組織的に活潑な歩みを續けてゐる。防空、防諜、公路愛護、生産増強、消費節約、人心安定等、各方面に亘つてビルマ史上空前の參戰體制が組織され、清新激刺な新國家の逞しい力となつてゐるのだ。

接敵地域ビルマは、かりそめの氣安めも許さぬ。この雄々しく緊張した戦國氣の中に、ビルマ民衆は、じつくりと腰を据ゑ、あらゆる苦難に打ち勝つて、國力を日ごと内に蓄へてゆく。そこに新國家の戦力がある。



派を家屋に多數の召使を擁し、ビルマ人の血統にならざる高給を食み、ウイスキーと運動と遊戯に快樂の日を過してゆけばそれでよかつた。

人を愛さなければ自分も亡んでしまふ。佛教に説く因果應報はビルマの生活信条である。ビルマ人に一片の愛憎もない者がビルマを支配することはあり得べからざることである。第二次歐洲戦争勃發後敗戦續きの英の懷柔色が隠し切れないものとなり、ビルマ民衆への無理強ひが惡くなるにつれ、これと反比例的にビルマ人の反英闘争が活潑化し、その指導者達は、インドと同様に多數投獄された。パー・モウ首相はモゴクの監獄に投せられ、タキン・ミン副首相もまた獄に呻吟してゐた。前交通運輸部長官タキン・パセインは國外脱出を企てて投獄された。英人どもは指導者の投獄で大事なしとみたが、いづくぞ知らん、ビルマ民衆の活眼は、東方を凝視し

全國士から選ばれた民防衛の婦人幹部養成の合同訓練がラングーンで行はれてゐる。「獨立の歌」の奏樂のうちに婦人部長パー・モウ夫人の演説を受ける乙女の顔はビルマ國民の自覺に明るく輝く。

今日、ビルマ民衆は皇軍に協力し、各方面に亘る建設奉仕隊やビルマ防衛軍に参加して尊い奉仕の勞働をし、また敵艦隊の掃討に奮起してゐる。皇軍への協力、そしてビルマ建國に向つて示され

あゝ、新しい國家ビルマ。わが建國の大精神はこゝに分現。われ／＼はビルマ民衆と共にこの榮光を身一杯に浴びると共に、今日の喜びを分つことなくビルマ作戦並びにビルマ周邊の作戦において惜しくも散華、大東亞建設の尊い人柱となつてビルマの山野平原に眠るわが忠勇の英魂に、心からなる感謝の念を捧げずにはをられない(現地寄稿)



総合訓練を受けたこの地区の婦人
の訓練の様子を写した。右は地区長

今日の訓練に出席した
ビルマの婦人。

これらはビルマの各地に
おいては、他の地区に
見られる。



光復の建國に高鳴る脚の鼓動を、このまゝ燃ゆるが如き祖國愛に置きかへて、起ちあがるビルマ人は新國家の育成に、各人が責任を各所に分担してゐる。ビルマの防衛はわれわれの手で、と自ら決りあがるやうに組織されたラングーン警防隊と隣組組織もまたその一つの現はれであらう。

かねて防空思想の普及とその指導にあつたてゐた現地軍當局では、バハン、カマヨの兩地区を先範地区と選定し、同地区の警防隊、隣組を範目として機能的総合訓練を行い、これを各郡に普及した。

この際、兩地区の警防隊長、隣組長は、小黒誠一



ビマルマの防空も隣組で

火は隣家に延燃したといふ想定のもとに、隣接隣組員も隣組に駆けつけての消火作業。□ ならでは見られぬ根根附の防空隊



現土新比馬國

訓練空襲警報が発令されるや、スハ敵機！とばかり直剣に大空を見守る隣組員の監視ぶり



わが地上大火によつて破壊された敵ハリケーンの残骸を見物するビルマ人



見事な戦域... 志願兵の入隊... 内地の兵に比して決して遜色がないといはれる上左
 訓練所から兵隊へ、その日も近づくにつれて、自衛隊の勉強も近づく
 教官の一語々に耳を澄まし、そして必ず自衛隊の神となつて先輩に続く決意を孕める



朝鮮同胞も護國の大任に

大東亞戦争は決戦段階に入らぬ。敵は血みどろの總反攻を繰返してゐるが、この秋に當り、國民皆兵のわが兵制は更に巨大な一歩を進め、新たに朝鮮二千四百方の同胞も、光輝あるわが兵役の榮譽を授け、祖國の大任につくことになつた。

徴兵制の施行に先立ち、昭和十三年、先づ特別志願兵が採用せられ、これに朝鮮同胞も年齢満十七歳以上の男子で、總督府陸軍兵士訓練所を修了した者は、現役または補充兵に編入され、軍務に服することができるようになつたのであるが、支那事變以來、朝鮮同胞の愛國の熱意は、日に昂まると一方、志願兵の成績も年を逐うて向上し、その優秀な者は既に將校となつてをり、戦場における活躍もまた目覚ましい、殊勳の恩賞を賜はつた者もあり、祖國の英雄として韓國神社に合祀された者もある。

殊に鮮血淋漓たる中に、戦友に抱き起されながら、遙かに宮城を拜し、天皇陛下萬歳を三唱して、涙目する如き、その最期は誠に立派な皇軍將兵であり、これによつて徴兵制が實施されることになつたのである。

かくして去る八月一日、徴兵制の施行と同時に、満十七歳以上明年満年齢までの男子は直ちに第二國民兵役に服することになり、明年の過齡者は、明年徴兵検査をうけ現役兵に合格すれば、明年十二月以降軍隊に入營するのであるが、今や國民皆兵は名實ともに整へ備はり、一位悉く皇軍御神兵となつて、米英撃滅に突進する日は来たのである。眞は總督府陸軍兵士志願者訓練所て警々訓練を勤み、晴れの日を待つ朝鮮同胞





気持のよかった 満洲の汗

満洲建設勤勞奉仕隊女子青年隊

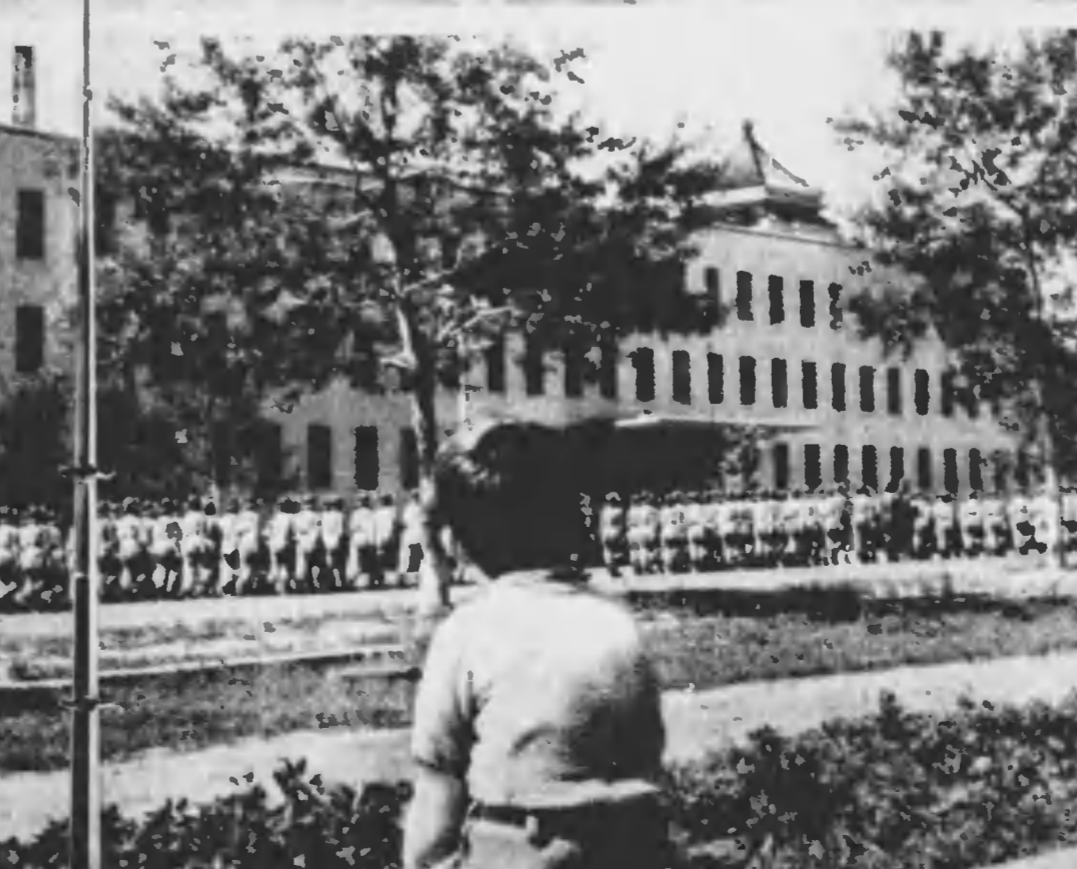
満洲建設に注ぎこむ我が青少年の逞しい意欲が實を結んで、事歸還した。隊員は何れも若さ満洲國はすく／＼と伸びてゐる。と健康に溢れ、將來は大陸に進出する。今夏も全道府縣から選ばれた二百五十名の満洲建設勤勞奉仕隊女子青年隊が六月上旬から六月下旬までの約一ヶ月間、満洲開拓青少年義勇隊訓練所や開拓訓練所や開拓團に配属されて、訓練所が見える。萬歳！萬歳！義勇隊の元氣な顔が迎へてゐる。



隊員の運々しいでたち

作業、農耕作業などに、鐵手よく期間一杯頑張り続けたが、歸還後も大陸の實踐的訓練で體得した興亞精神を活かして、女子青年團興亞運動の中核となすことになつてゐる

撮影 大日本青少年團
新京市の大岡大街を國務院へ堂々行進する女子青年隊

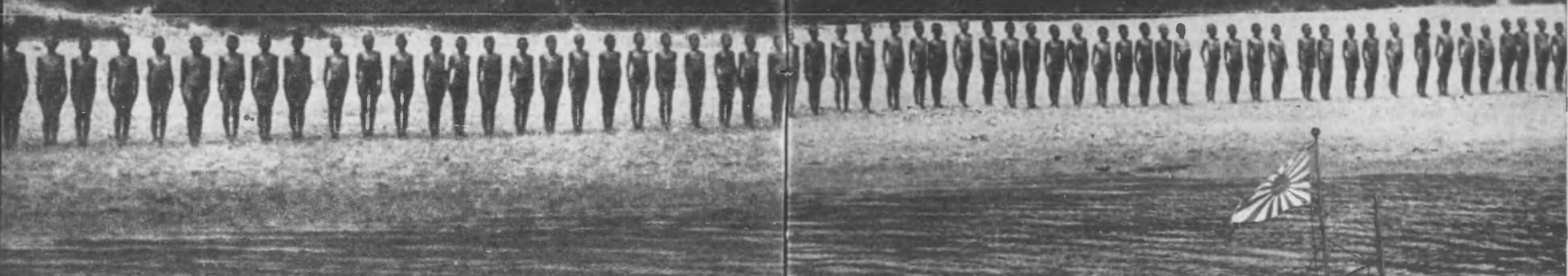


酒で洗濯「かうして洗よとすつと綺麗になるわよ」

乳搾りも短期間とは思へぬほど上手になつた

「村づくり」の希望を語り合ふ。大きな理想、楽しい夢





豊かに鍛ふ 大阪市中村 照夫
 少年隊の活動は、大阪府東区第七国民学校海洋少年隊の活動です。同校の少年隊は全国でも有名な隊で、大和川の一里の塔(塔)附近で、お手のもの水泳訓練を實施、陽を吹き飛ばして鍛へてゐる。

豊かに鍛ふ
 少年隊の活動は、大阪府東区第七国民学校海洋少年隊の活動です。同校の少年隊は全国でも有名な隊で、大和川の一里の塔(塔)附近で、お手のもの水泳訓練を實施、陽を吹き飛ばして鍛へてゐる。



情報局監修『戦ふ日本』特報
 常に戦場に在り 日本映画社製作

本映畫は、元帥山本五十六大将の不滅の武勳をしのび、元帥の幼少時代より太平洋最前線上空において直接指揮中敵と交戦、壯烈なる戦死を遂げられるに至るまでの、忠告至誠、滅私報國の烈々たる精神に、つらぬかれた生涯を叙し無言の涙をなされた元帥の英靈を迎へ、嚴肅に執行された國葬の状況を記録した映畫で、武士の心構へとして元帥が幼少の頃より終生信じてをられた『常在戦場』の精神を以て、一億國民が總力を挙げて米英撃滅に邁進することこそ、元帥の英靈に應へまつる道であることを示したものである。

増産の手帳

稲熱病と浮塵子の防除に努めませう

稲熱病やセジロウカ、トビイロウカは、稲の病害虫の中で最も恐ろしい大敵です。そして、大敵の原因となるものが少くありません。ところで、いよいよこれ等病害虫の発生時期となりました。

さあ、稲熱病に對しては、窒素肥料の効き過ぎたやうな田圃とか、毎年出易い田圃、それからまた、今まで葉枯熱病の多く発生したやうな田圃等には特に注意して、穂生期、穂揃期には必ず葉枯熱病を、出来るだけ共同播種やりにませう。

穂生期に穂くと、穂が傾くなら、それが浮塵子に對しては、



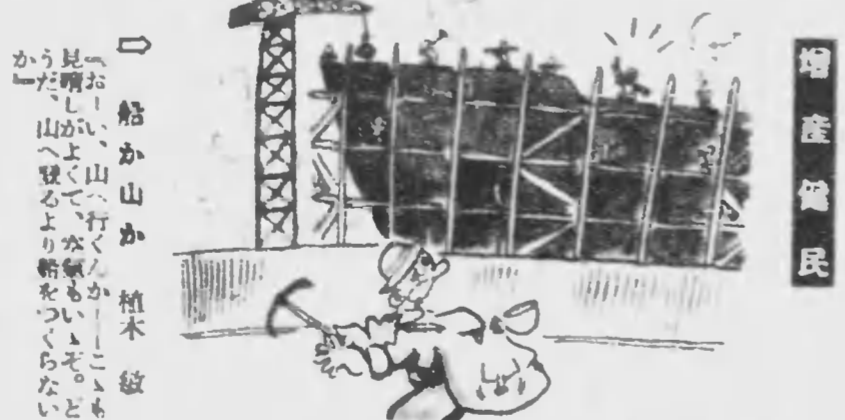
穂肥をしませう
 穂肥は増産のため非常に有効です。次ぎのやうな點に注意し、指導者の指導に従つて、せむ實行いたしませう。穂肥にせむ肥料は硫酸アンモニアやうな速効性窒素肥料に限ります。穂肥の時期は稲の出穂期(穂)位前まで、盛んな分蘗を終つて、葉色が僅かに褪せた頃です。穂肥の分量は稲の出来を見て定めるべきですが、だいたい一段當り硫酸アンモニア一二貫程度でよろしいでせう。二貫以上施すと危険ですから注意を要します。

穂肥の施し方は、だいたい次の要領で行ひます
 1、分量が少く乾燥した土は砂等と混ぜ、容積を増し、わらなく撒布します
 2、施肥前、浅水とし、施肥後よく土と混ぜ合はせませう
 3、分蘗期を過ぎてもまだ葉の色が褪せず、眞青である場合がありませう。これは稲が肥料分を浮山に含んでゐる證據ですから、かやうな場合は穂肥を行つてはなりません。

★表紙
 南太平洋は決戦の修羅場だ。レンドバにムンダにニムニアに、砲聲が密林に轟き渡る。探偵した砲門の引金は、灼けて手をこがすほど熱い。が、それにもまして熱く燃えるもの、それは最後の一兵まで戦ふ軍傳統の敢闘精神だ。

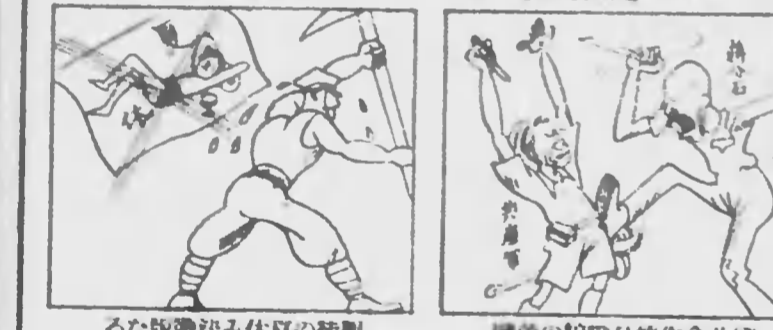
増産健民

河ありて 山ありて



河ありて 山ありて
 山ありて 河ありて
 山ありて 河ありて
 山ありて 河ありて

大東亞戦争漫遊日誌 川石 介



汗は流しやう 山川 哲
 「暑い汗をゴルフたまで、洗つてはつたのが、かきかして、また他の作つたトマトで、かきかして行かんかい」

